

SSH 特別講義

「メダカと私の研究」愛知教育大学名誉教授 岩松 鷹司 先生

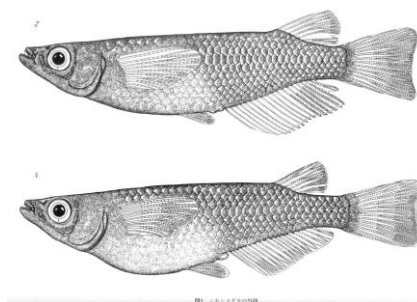
最先端の科学技術や研究内容に触れることは、探究意欲を高め、未来創造に向けて豊かな発想力の育成につながります。12月4日（水）5・6限2年生理系生物選択者対象に、「SS生物」の受精と発生の授業を、愛知教育大学名誉教授の理学博士岩松鷹司先生に特別講義として実施していただきました。遺伝子工学や分子生物学の知識や、高度な先端機器を使った実験が多いなか、身近な「メダカ」を題材にして、世界的な研究者として多くの業績を残され、現在もさらにテーマをもって取り組まれている姿は、講義内容とともに生徒に力を与えました。

「学問とは、人間の利益に結びつかない研究である」という話で始まった講義は、先生の学生時代の経験を交え、研究者のあるべき姿勢を示唆されました。また、「観察力とは、見えるものを通して見えないもの（＝本質）を知ることである」の言葉で、とかく知識偏重になりがちな勉強に対して、地道な観察とデータに基づく豊かな発想が、誰も成し遂げられなかった発見や業績に結びつくことを強調されました。ゾウリムシの原形質分離やメダカの卵母細胞の排卵過程での回転の発見、エクオリン発光を利用した受精波の可視化などエピソードを交えた講義は大変興味深く、生徒の記憶に残る授業となりました。

最後に、「まず動け、而して考えよ」の言葉で、生徒たちを激励していただきました。



岩松 鷹司先生



岩松先生によるメダカのスケッチ